

## 横田の空兵 地元の中学校でミニ・ブートキャンプを指導 Yokota Airmen provide a mini boot camp to middle school students

July 14, 2016

Original text by Yasuo Osakabe  
374th Airlift Wing Public Affairs

「右向け右！・・・左向け左！」アメリカの軍人たちが戸惑う日本の生徒たちに動作の指示を出す号令が校庭に響いた。

だが、これは軍の学校とは違う。7月2日、地元の武蔵村山市立第5中学校の生徒たちが、同校の第13回5中フェスティバルの一環として横田基地第374医療群のメンバーが指導するミニ・ブートキャンプ「障害物競走コース」に参加した。

第374医療支援中隊カスタマーサービス下士官指導責任者ゲアボン・ハミルトン軍曹は「我々と地元の生徒たちが交流ができる他に類のない方法だと思う。我々としても日本の中学校を訪問し、生徒たちと交流できたことは有意義な経験だった」と振り返る。

同コースでは、中学3年生の各クラスの生徒たちに整列の動作、マーチング、障害物コースの進み方等を教えた。

「学ぶのに通常一週間掛かるものを、このキャンプでは教える時間が20分に限られた。それに生徒たちは英語を学んでいるものの、言葉の壁もあった。そういうことがあっても、生徒たちはうまく指示を理解し、綺麗に整列してマーチもできた」とドリルコースを指導したハミルトンは言った。

軍のしきたりや伝統を体験するのに加えて、当プログラムは生徒たちに直に生の英語に触れる機会も与えた。

参加した武蔵村山市立第5中学校の生徒の一人ヤマグチ・ヒナさんは、自分もクラスメイトも自分達の英語力が心配だったが、体験を通じて段々と馴染み、指示が分かるようになったと話していた。

「何よりもこれは日本の生徒たちと空兵にとって人生の宝となる経験。我々がこの日本にいて新しい体験をさせてあげられることの一つ。将来、これらの生徒たちが中学時代の経験を思い起こす時、このコースで楽しんだことを思い出して欲しい」とハミルトンは述べた。

2時間に渡るブートキャンプを通じて、生徒達はアメリカ空軍の一部を垣間見、知る機会を得た。



武蔵村山市立第5中学校の3年生たちに挨拶をする横田基地第374医療群の空兵たち



ミニ・ブートキャンプで円陣を組む生徒たち(左) 敬礼する参加生徒(右)  
生徒たちはキャンプを通じて米軍の規則や習慣の一部に触れた



顔にフェイスペイントを施し、障害物コースで砂の上を匍匐前進する武蔵村山市立第5中学校の3年生たち